

鹿児島の昆虫⑬

危険なスズメバチ

昆虫担当 中峯浩司

スズメバチのなかまは鹿児島県には15種が分布します。このうち、大型のオオスズメバチ、キイロスズメバチ、コガタスズメバチやアシナガバチのなかまは特に危険なハチとして知られています。

私が生まれ育った種子島ではコガタスズメバチが多く、巣が見つかるによく「スズメバチ退治」に出かけたものです。石を投げつけて巣を壊すのですが、今思えばこれは絶対にやってはいけない命に係わる遊びでした。

ハチ毒はタンパク質からできており、一度さされると体液中に抗体ができ、二度目にさされたときにハチ毒（抗原）と抗体との間に抗原抗体反応が起きます。はしかには二度かからないと言われるように、これは病原体や毒素から体を守るためにとっても大事なはたらきです。ところが、この反応が過敏に起こるとアレルギー症状が起き、時にはアナフィラキシーショックと呼ばれる症状によって死に至ることもあります。

私も一度、「退治」の最中にコガタスズメバチに追いかけられ、背中を2箇所刺されたことがあります。

秋は巣が最大になると同時に繁殖の時期でもあるため、ハチたちはとてもいらだっています。巣にうかつに近寄らないことは当然ですが、ハチが飛び交う場所は巣が近くにある可能性があるので避けた方が無難です。



左：樹液に来たオオスズメバチ

そっとしておけばおそってくることはない

右：がけにつくられたキイロスズメバチの巣

近づくのは危険！

鹿児島の植物⑭

廃れる里山 豊かな緑

寺田 仁志

鹿児島の里山は、集落や耕作地のある里地、それに接して薪や肥料として落葉を掻く裏山、炭を焼く炭焼山、生活具材の竹や筍をとる竹山、屋根葺きの素材や緑肥、飼料をとる立野（茅野）、スギやクスノキなどの有用樹を育てる立山、集落を風水害から守るように手つかずの空間として残されてきた神山・鎮守の森などからなります。

また、里地近くの水利のよい斜面は棚田に、周辺部は段々畑に利用されていました。

ところが、高度経済成長に伴って労働力が地方から都市に吸収されると、生産性の低い段々畑は放置されたり、周辺の斜面とともにスギ林やクスノキ林に変わりました。さらに米の減反政策とともに棚田は減少し、放棄地やスギ林に変わりました。

棚田の放棄地は時間とともに乾燥化し、ススキ草地、成長の速いアカメガシワやネムノキなどの落葉広葉樹林、そしてタブノ

キ林、ついにはシイ林などの照葉樹林に変わっていきます。段々畑は放棄される以前から既にシイやアラカシなどの照葉樹の苗が畦に準備されており、シイ林に移り変わるまでの時間は短くなります。

天然記念物の生育環境調査等で周辺の森の調査を行うことがあります。地域の自然を代表する大きなシイ、タブノキの林をみると豊かな森と心躍りますが、この中に崩れた石垣を見つかることがあります。

ここは先祖が血の汗を流した段々畑の跡だったのか、里山の森は以前にも増して植物でにぎわっているのにと、感慨にふけます。



棚田の隣のスギ林は段々畑跡